

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	大阪府
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	泉南市立樽井小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	4	5	4	4	4	4	2	27	39
児童数	151	176	146	153	122	140	(9)	888	

研究の概要

1. 研究主題

児童一人一人の実態に基づいたきめ細かな授業や、個に応じた指導を行うことによって、基礎・基本の確実な定着、学力の向上を目指す。そのための少人数による授業の形態や効果的な指導法や「小・中学校間いきいきスクール」の教員の専門性を生かした指導体制の研究を進める。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・1年生、2年生、3年生、6年生の算数
- ・学習内容を確実に定着していくことの積み重ねがもっとも大切な教科である。一度つまずき、そのまま放置してしまうと、同じ領域の次の学習でも、わかりづらくなってしまふことが多く、算数嫌いになる児童がいる。基礎・基本を確実に定着させ、算数嫌いを少なくするため、実施教科とした。
- ・問題解決学習・体験的学習など児童が学びを楽しめる授業作りができると考えた。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>研究の見通し</p> <p>「いきいきスクール」の教員による教科担任制、少人数指導の導入により、児童一人一人へのきめ細かな指導が行き届き、指導効果が上がるとともに、基礎・基本の定着を図ることが出来る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態に応じたきめ細かな指導とは、どのような少人数授業なのか。 ・学力の実態をどのように見取りその結果をどのように生かすのか。 ・教科担任制の研究 ・学習教材作りと有効な活用及び学習環境の整備
--------	--

平成 16 年度	平成15年度の実践をもとに、さらに実践を深めるとともに、研究授業等を通して授業を公開しながら、研究の深化を図り、研究の過程及び成果を広く普及する。
----------------	---

(3) 研究推進体制

<p>加配教員1名が、6年生の算数科専科として入り、6年の教師が3学年の少人数指導に入る。</p> <p>加配教員1名は、1・2年の少人数指導に入る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・二分割少人数授業 ・習熟度別少人数指導 ・課題別少人数指導 <p>余裕教室を算数教室として、少人数分割授業の際に活用する。</p> <p>学年会で、情報交換、共通理解を図りながら研究を進める。</p>

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<ul style="list-style-type: none"> ○ 低学年において、少人数分割授業が定着してきた。2年生では、九九の表の学習の際に、それまでの九九の学習の習熟度合いにより、習熟度別に分割授業を行った。 ○ 教材、授業計画等を共有し、効率的に授業を実施することができた。 ○ 教科担任制により、きめ細かい教材研究と指導内容・教材の統一化ができた。また、中学校内容と関連性、発展性を持たせた指導をすることができた。

2. 今後の課題

<ul style="list-style-type: none"> ○ 分割授業する際の話し合いの時間の確保など運営上での問題 ○ 分割に関わって自己評価能力の育成の工夫 ○ 児童が意欲的に取り組めるように工夫した授業作り ○ 学力が定着しにくい児童に対する支援のあり方の工夫

学力等把握のための学校としての取組

特になし。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年度2学期に研究発表予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無